



生活様式が大きく変わったJAや組合員の皆さまに贈る日本農業新聞の読みどころ集です。「この1週間を振り返る」ため週刊でお届けします。



日本農業新聞の読みどころ

週刊ダイジェスト

2021年7/31〜8/6付

米「現物市場」創設を

自民提言へ年度内設計求める

自民党は3日、米を取引する現物市場を創設するよう、政府に提言する方針を固めた。現状では米需給の実態を表す価格指標が不十分で、より透明性のある価格形成の場が必要と判断。JAグループや米卸など幅広い関係者が参加する市場を実現するため、農水省に検討会を設置し、2021年度中に制度設計を進めるよう求める。

同党は近く提言を正式決定し、政府に申し入れる。提言案では、米の需給実態に応じた「や集荷業者、卸売業者」や「価格形成を行う現物市場」など幅広い参加の必要を入れる。提言案では、一場の創設を提起。JAグループなど関係者に「性」を強調する。創設による検討会を設置し、

21年度内をめどに制度設計の検討を求める。米の取引市場を巡っては、大阪堂島商品取引所が7月、同省に生

自民党は米を取引する「現物市場」を創設するよう、政府に提言する方針を固めました。現状では米需給の実態を表す価格指標が不十分で、より透明性の高い価格形成の場が必要と判断。JAグループや米卸など幅広い関係者が参加する必要性を強調しています。農水省に検討会を設置し、2021年度中に制度設計を進めるよう求めています。米の現物市場は、公設で取引価格を公表していた全国米穀取引・価格形成センターが11年に廃止。相対取引が米取引の主流になり、上場数が激減したことが廃止の要因で、関係者が幅広く参加する現物市場の実現には課題も多そうです。(8/4付1面)

福島被災地が協議会

営農再開や参加加速

冷凍や加工販売想定

東京電力福島第一原発事故で、被災した12市町村とJAでつくる「福島県高付加価値産地協議会」が発足しました。農畜産物の生産や流通・加工などで、関係機関や団体が連携し、営農再開や新規参入を促す狙い。冷凍やカットした野菜をはじめ、パックご飯の製造施設を新設、加工用サツマイモの産地などを想定。2030年度までに80億円を算出する産地を形成し、25年度までに3割達成を目指します。(8/6付2面)

【ふくしま】東京電力福島第一原子力発電所事故で被災した12市町村とJAなどで構成する「福島県高付加価値産地協議会」が5日、発足した。農畜産物の生産と流通、加工などで関係機関・団体が連携し、営農再開や新規参入の加速を後押しする。例えば、農産物の冷凍、カット野菜などの加工やパックご飯製造などの施設をつくり、付加価値を付けた販売などを想定する。

く覚悟で取り組みたい。さまざまな課題解決につなげたい」と意気込みを述べた。

協議会には12市町村に加え、JAふくしま未来、JA福島さくら、JA福島中央会、JA全農福島、ふくしま農業法人協会などの農業団体、民間企業などが参加する。

国の福島県高付加価値産地展開支援事業に基づき設立した。今後、事業計画を提出し、承認を受けて推進していく。

事業費は国と県など合わせて約68億円。具体的事業として、冷凍加工や野菜カット、パックご飯製造などの施設の新設、加工用サツマイモの産地化といった事業の展開を見通す。2030年度までに80億円を産出する産地を形成し、25年度までに、その3割の達成を目指す。

再開率は、昨年度末時点で4割弱。担い手確保や後継者づくりなども課題となっている。協議会設立により、市町村の枠を超えた連携を目指す。

総会では会長にJA福島さくらの木幡治復興対策本部長、副会長にJAふくしま未来の高木正勝常務を選んだ。木幡会長は「新たなビジネスモデルを築

今週の記念日

今回は都合により休載します。



TOKYO 2020

東北より

ありがとう

あぐる

「復興五輪」として位置付けた東京オリンピック・パラリンピックが開幕。メダリストに副賞として贈られる「ビクトリーブーケ」生産も佳境を迎えています。被災地の岩手産のリンドウ、宮城産のヒマワリ、福島産のトルコギキョウを採用し、大会期間中に5,000個以上を用意します。
(8/2付9面)



五輪ビクトリーブーケ



「復興五輪」として位置付けた東京オリンピック・パラリンピックが開幕。メダリストに副賞として贈られる「ビクトリーブーケ」生産も佳境を迎えています。被災地の岩手産のリンドウ、宮城産のヒマワリ、福島産のトルコギキョウを採用し、大会期間中に5,000個以上を用意します。
(8/2付9面)

家族同様に見送るペット葬の需要が増えています。JA東京中央セレモニーセンターは、火葬の間に思い出に浸れる待合室を用意し、月50件に増えています。長野県のジェイエィ・アップルも、1周忌に手紙を送るなど、きめ細かい対応で支持されています。(8/4付14面)



生活ナビ

家族「失うロス和らげる」

ペット葬 需要高まる



待合室で心整理、骨上げも

一周忌に

家族「失うロス和らげる」



AIがニンニク選別 専用機を全国初導入

JAゆき青森は人工知能(AI)を搭載したニンニク選別機を全国で初導入しました。品位選別や積込作業など重労働を機械化し、人員を7割削減できる利点があります。(8/4付5面)

AIがニンニク選別 専用機を全国初導入

日本農業新聞 東北支所 副支所長 小島慶太
前回に続きコロナ禍での新しい生活様式をご紹介③ これまで営業先の日程を優先して始発出張や終電帰宅が多かった不規則な生活から一転。自宅と会社を往復する穏やかな生活に。時間的な余裕が生まれ、朝晩2、3時間を好きな読書に充てています。主に図書館で借りた歴史や科学、東北出身の作家など、去年は120冊を読破。郷土史から学ぶことは多く、ご当地の特異な地名や人名から歴史をひも解くのが楽しみです。

